

山中幽人さんちゆうゆうじんと対酌たいしやくす

李リ

白はく

兩人りょうにん対酌たいしやく山花さんか開ひらく

一杯いっぱい一杯いっぱい復また一杯いっ杯ぱい

我われ醉よて眠ねむむ欲ほつすきみししらら去され

明朝みょうちゆう意い有あらば琴ことを抱いだき来きたれ

【作者】李 白（七〇一〜七六二年）盛唐の詩人

【通釈】山の中で、世を捨てた者同士さし向かいで酒を飲む。まわりには山の花が満開だ一杯一杯また一杯と飲み交わすうち、酔っ払って眠くなった。私はしばらく眠るから、君はちよつとあちらへ行っていてくれないか。また気が向いたなら翌朝、今度は琴を持って来てくれたまえ。

参考・・・酒の好きな人ならではの詩だと思う、気持ち良く、「一杯一杯復一杯」と盃を重ねていくうちに、酔っ払って眠くなっていく。気心の知れた友人だ。無理をして相手に合わせる必要も無い。眠くなってきたから眠る。いいですねー。明るい灯の下で飲んでワイワイ騒ぐのも、それはそれで飲む楽しみに違いませんがこんな風に飲んでみたいですねー。翌朝、友人は琴を持って訪れたのだろうか。来てもよし、来ずともよし。気ままな世捨て人の暮らしである。